



そこまでは..

なんてこった!

とにかく治療させて  
あげるよ...

まったく...

こんな弱いモンスター  
に、どうしてこんなにや  
られたんだ? 部族の未来、  
本当に終わりだな。

大丈夫...



治った...

おおおお!  
すごい!



僕も怪我し  
たんだ!  
治療して  
くれよ!



こんな傷、自分で包帯巻いて  
おけばいいだろ! バカ犬!

俺の魔力を無駄にすんぞ!

ケチく  
さい!!

HP

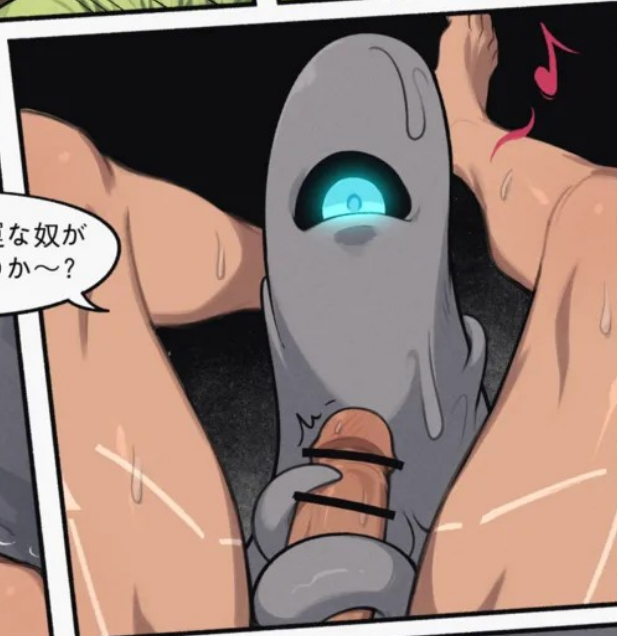
HP





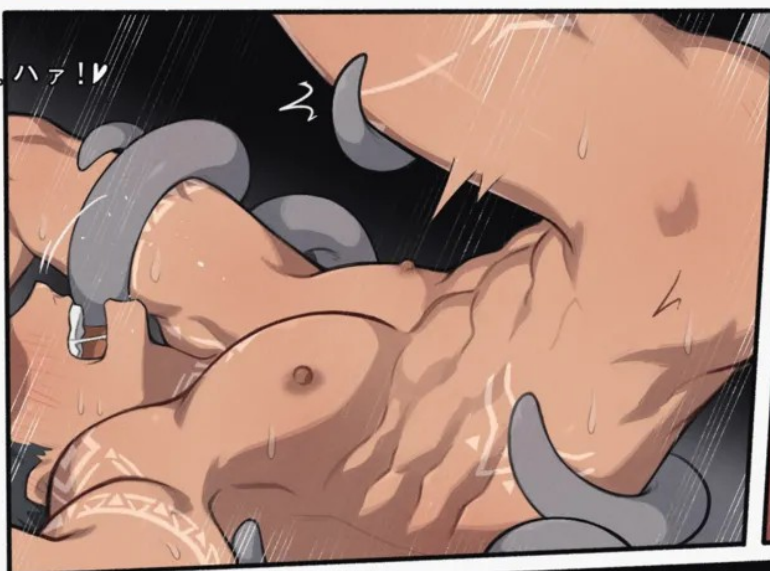


どんな不運な奴が  
捕まったのか～？



おお！血気盛んなワンちゃん～  
見た目は美味しそう～！

お前は何の魔獣だ？  
早く離してくれ！



魔獣？俺は  
人間だ！



せめて。昔は  
そうだったかな..



やっぱり..元の姿を  
保てないみたい...

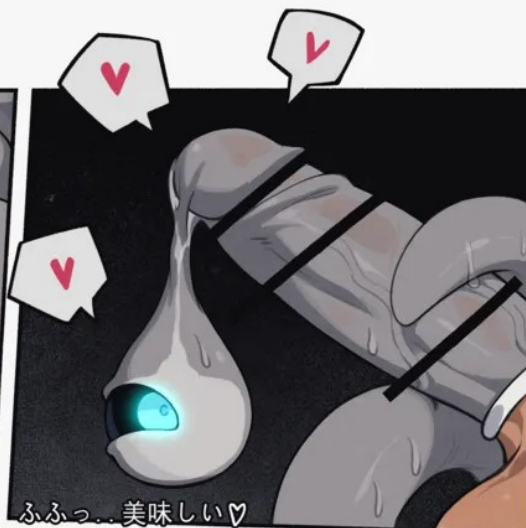
目が覚めたら、見知らぬ山奥  
にいて、どれだけの間、男を  
食べてないかも分からない..

何をする気...?

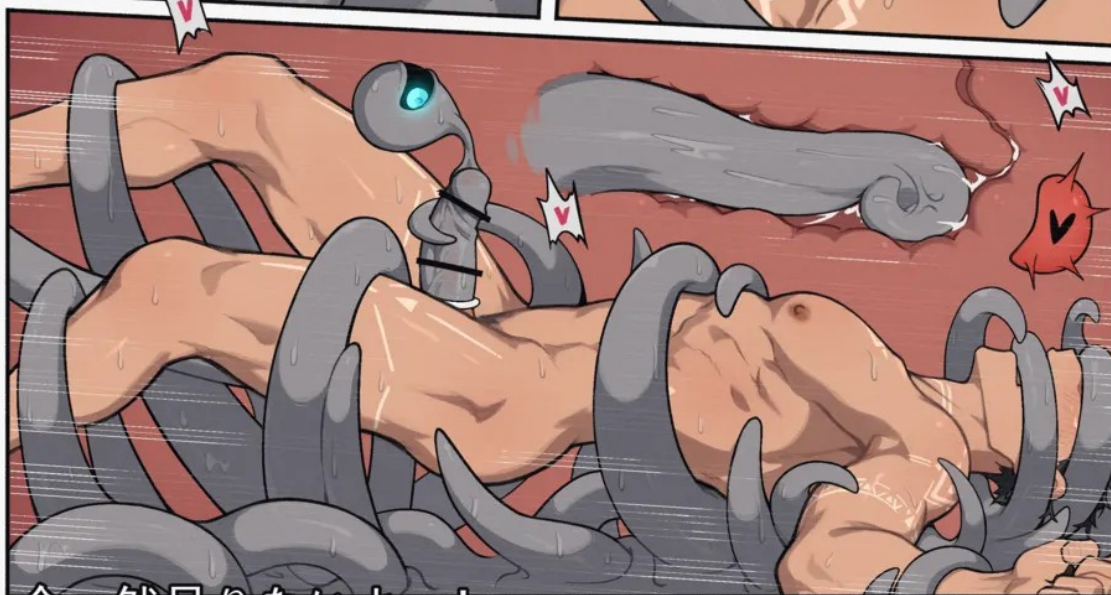
もう我慢できない、今  
すぐいただくよ..!

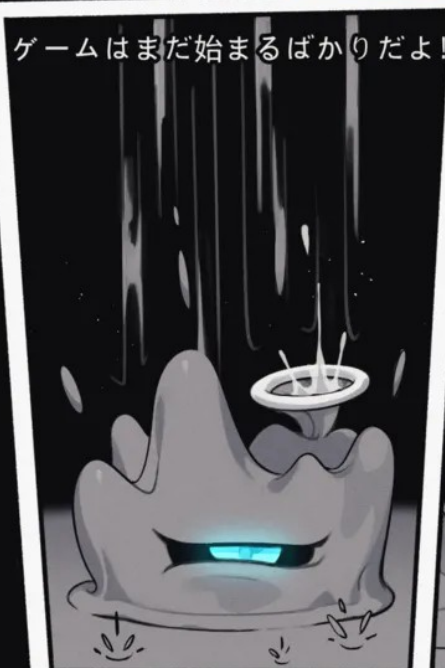
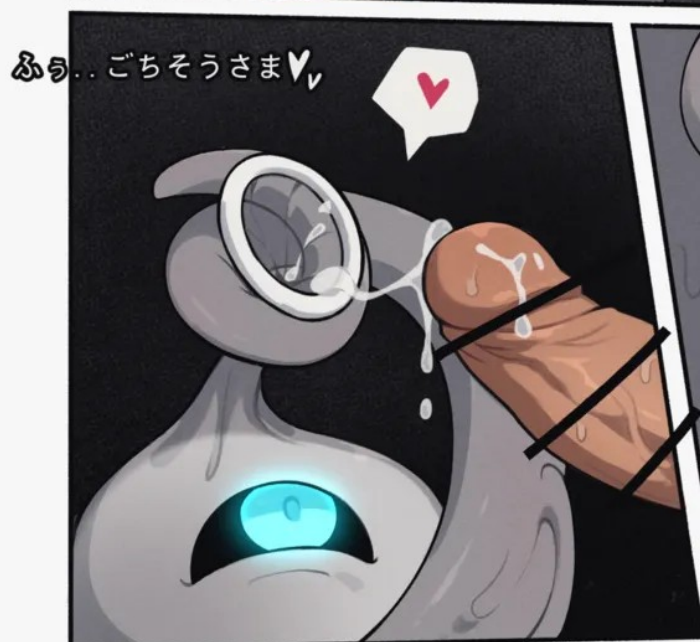


ちょっと刺激しただけで、ワンちゃんもう出ちゃったのね？



でも..  
こんな  
分量じゃ..







俺の体は自由に変化できるけど、人間のような複雑な外見はうまく再現するのが難しいんだ。

人によって見た目にも違いがあるので、細かいところをしっかり押さえていないとなかなか似てこないんです..



ですが、精液を吸収すれば、それを解析して、一瞬でお前の外見とそっくりにすることができます..

もちろん、色しか..

ワンちゃんは自分の大きい胸の  
エッチを知っている？



いい子いい子..



自分のちんこも試  
みましょうか~?



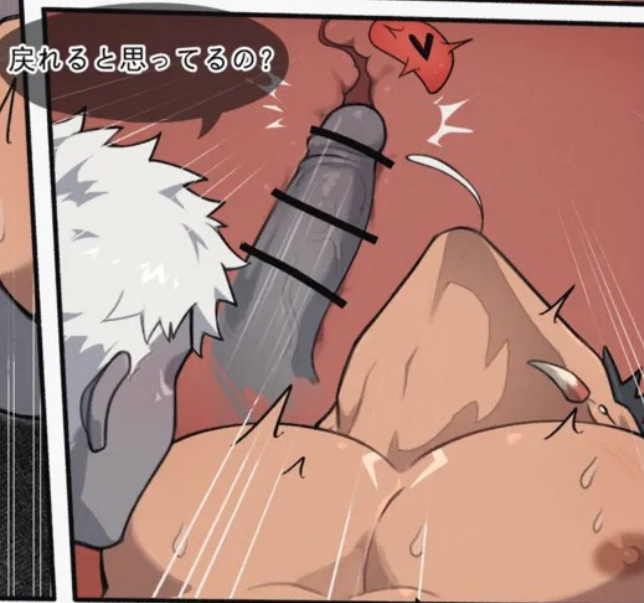
さ..  
させるか..!

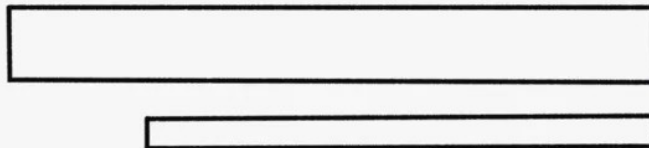
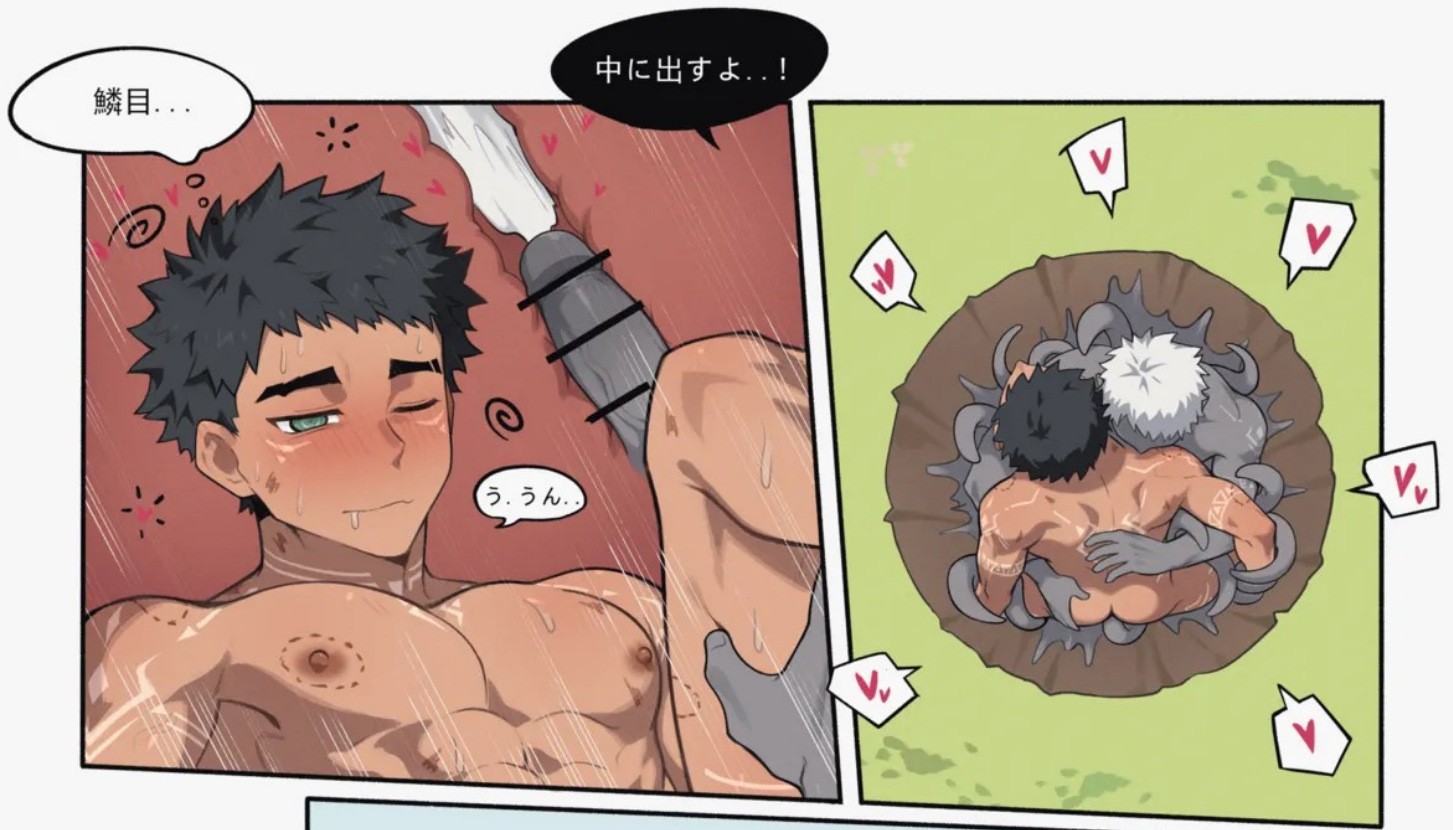






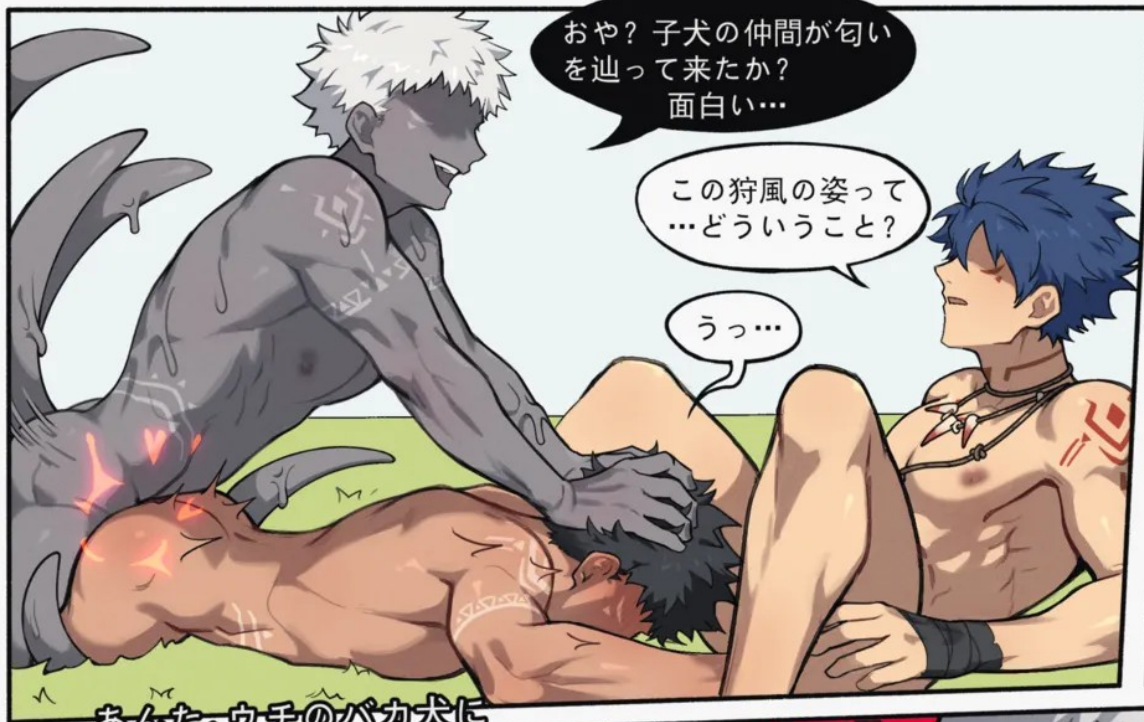
部族に戻ったら、お、お前なんて——



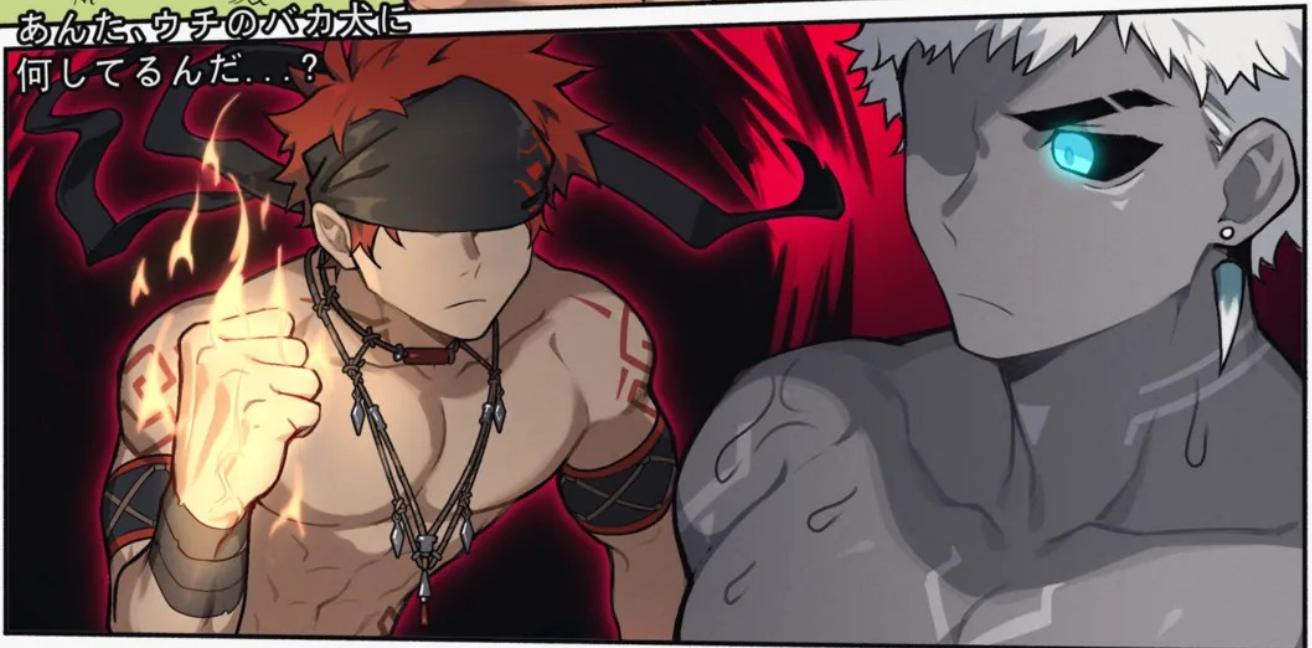


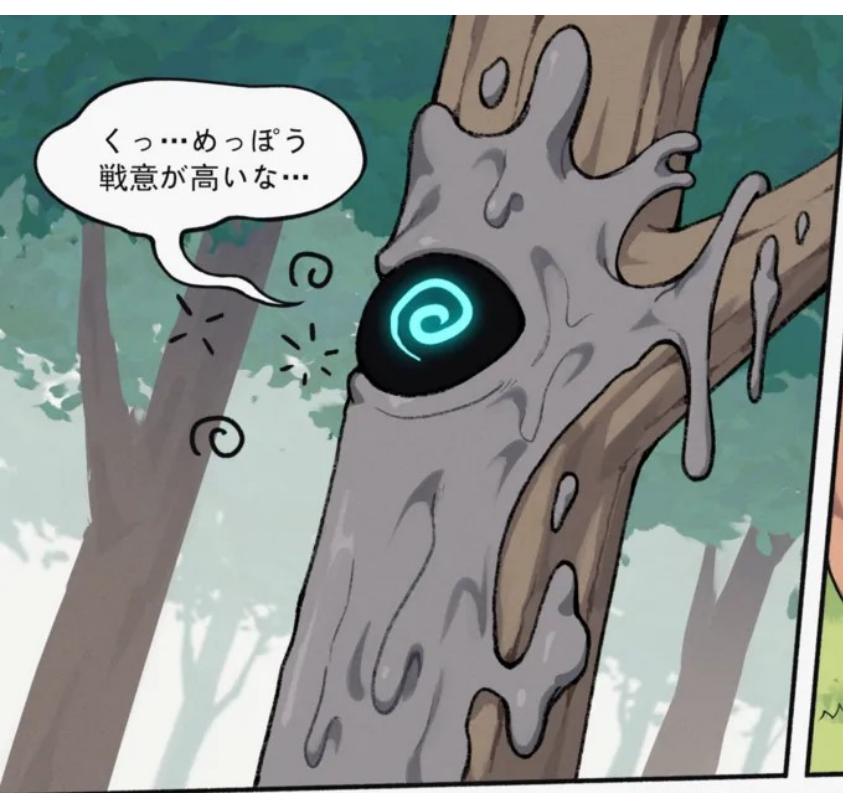
つづく...





あんた、ウチのバカ犬に  
何してるんだ...?





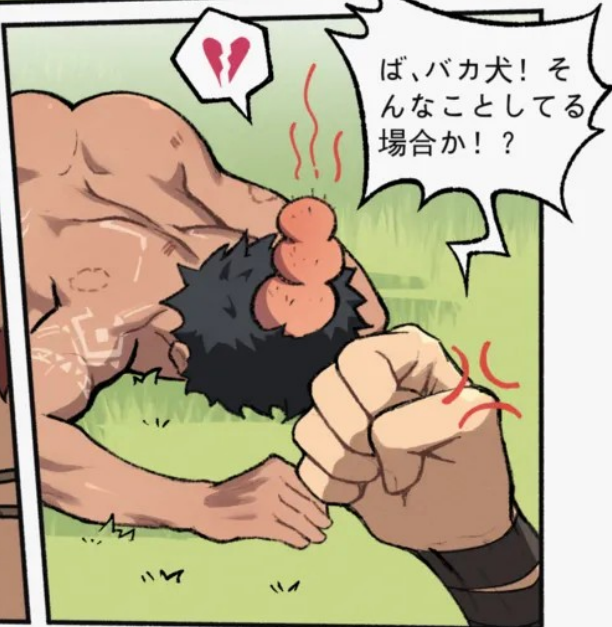
くっ…めっぽう  
戦意が高いな…



おい狩風、大丈夫か？



鱗目…  
ちゅーして…



ば、バカ犬！そ  
んなことしてる  
場合か！？



危ない！



ふふふ…私が相手  
になってあげる…

遅いぞ!

ふっ…別に速く  
ある必要なんて  
ないのよ…

だって…

避ける必要  
ないもの!



これで喰らえ……!!



凌石!



今、応急処置の呪文をかける…!

ふふふ…  
かわいそうな子犬ね、  
一番手をかけてほしい  
のは君なのに…



あの魔術師は君を  
ここに放ったらし  
にして、治療もして  
くれない…

変だ…  
なんであの化け物の声  
が頭に響くんだ…

私について来  
ないか?

鱗目...やつは沼の魔獣  
に似ている。刀剣なんか  
じゃ効かない...

それなら...



休憩は終わり?  
捕まえてあげる!



雷属性付与!



うわあああっ!!!

忌々しい魔術師め!

よし、引きつけろ!  
大きいのを一発溜めて、とどめを刺す!

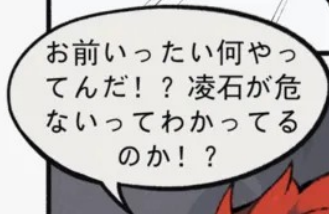
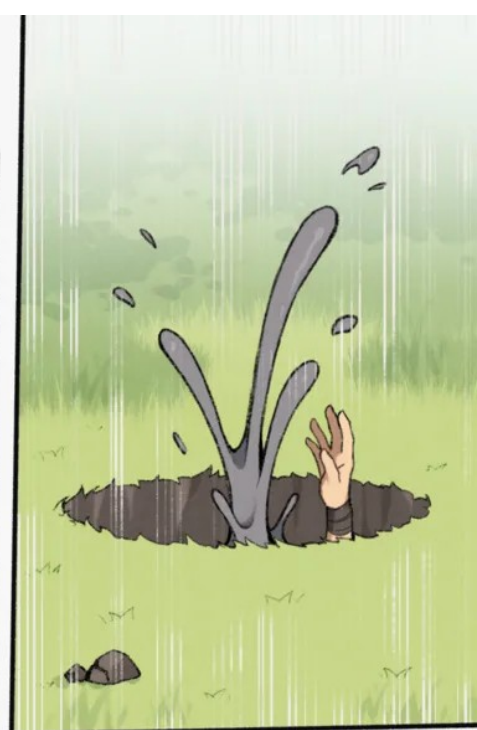
えっ?!

痛っ!

バカ犬...何するんだ!? なんで体がねばねばしてる!?

拖走

鱗目!!



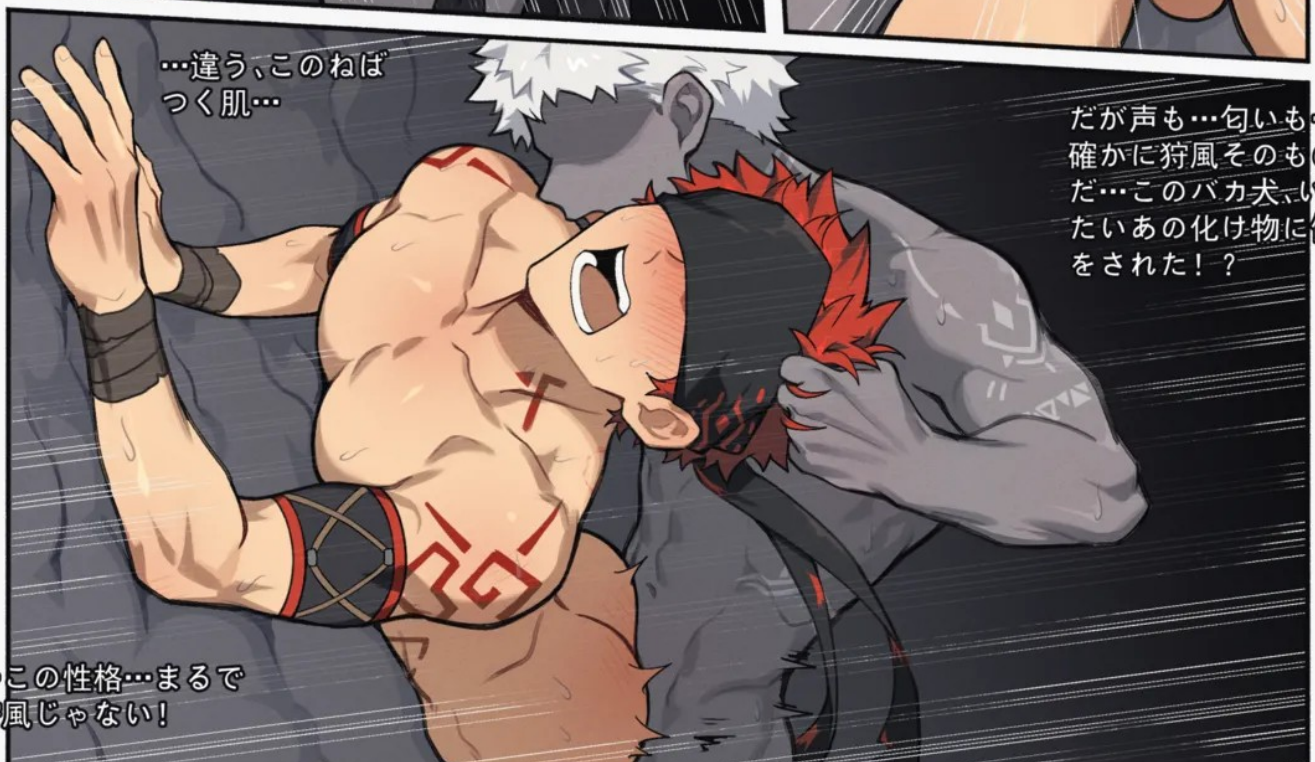


なぜ…いつも凌石ばかりをそんなに構うんだ！

…はあ？！



何甘えてるんだよ…凌石はまだ実戦経験が浅いんだ、多少気にかかるのが普通だろう…



…違う、このねばつく肌…

だが声も…匂いも…確かに狩風そのものだ…このバカ犬、いったいあの化け物に何をされた！？

…この性格…まるで狩風じゃない！

※鱗目は布で目隠しされており、熱感知で周囲を認識しているため、狩風の体色に変化していることに気づけない。



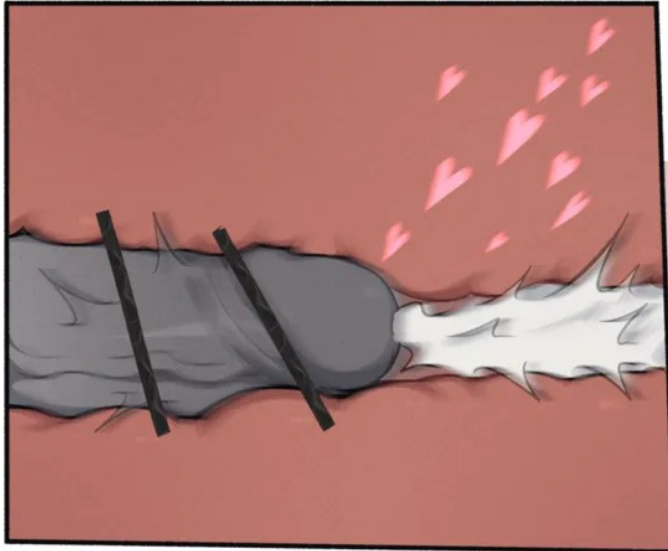
なぜ俺を癒して  
くれない!?  
なぜ凌石ばかり  
を治すんだ!?



(※過剰な治療/回復)



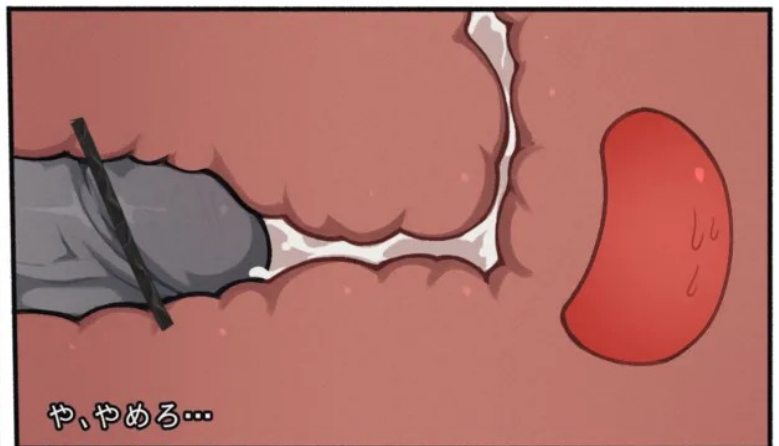
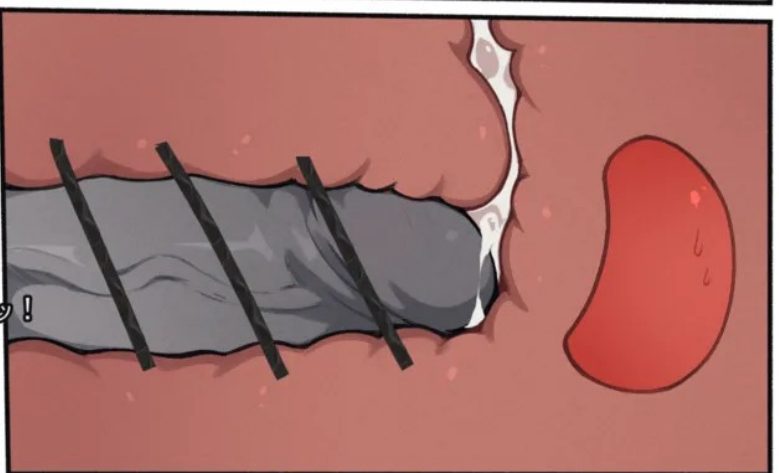
HP



ゴホッ!

ゴホッ...!!

なんかマズいこと  
した気がする..!



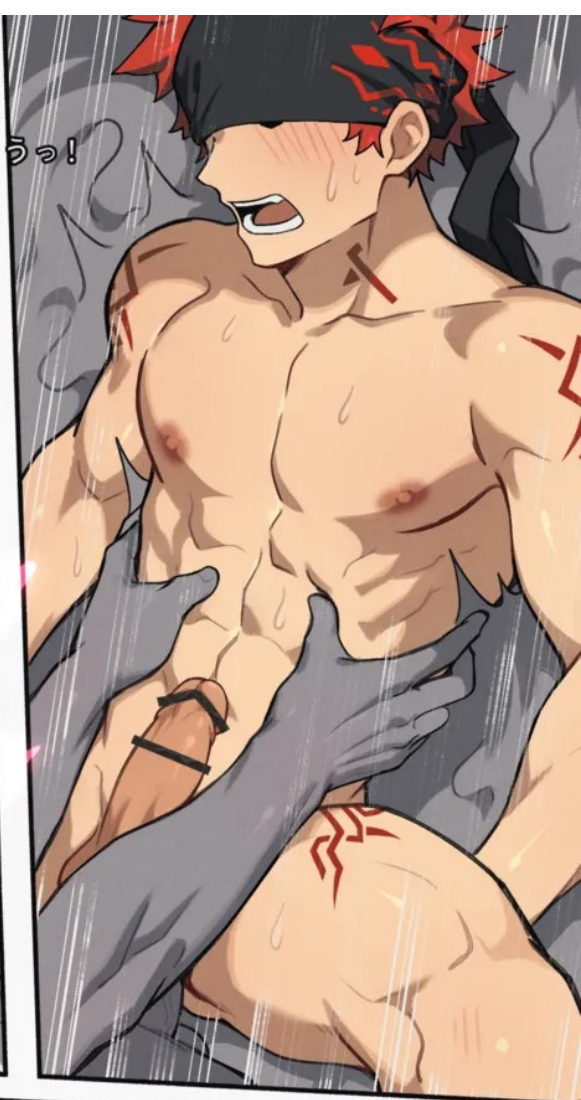
や、やめる...



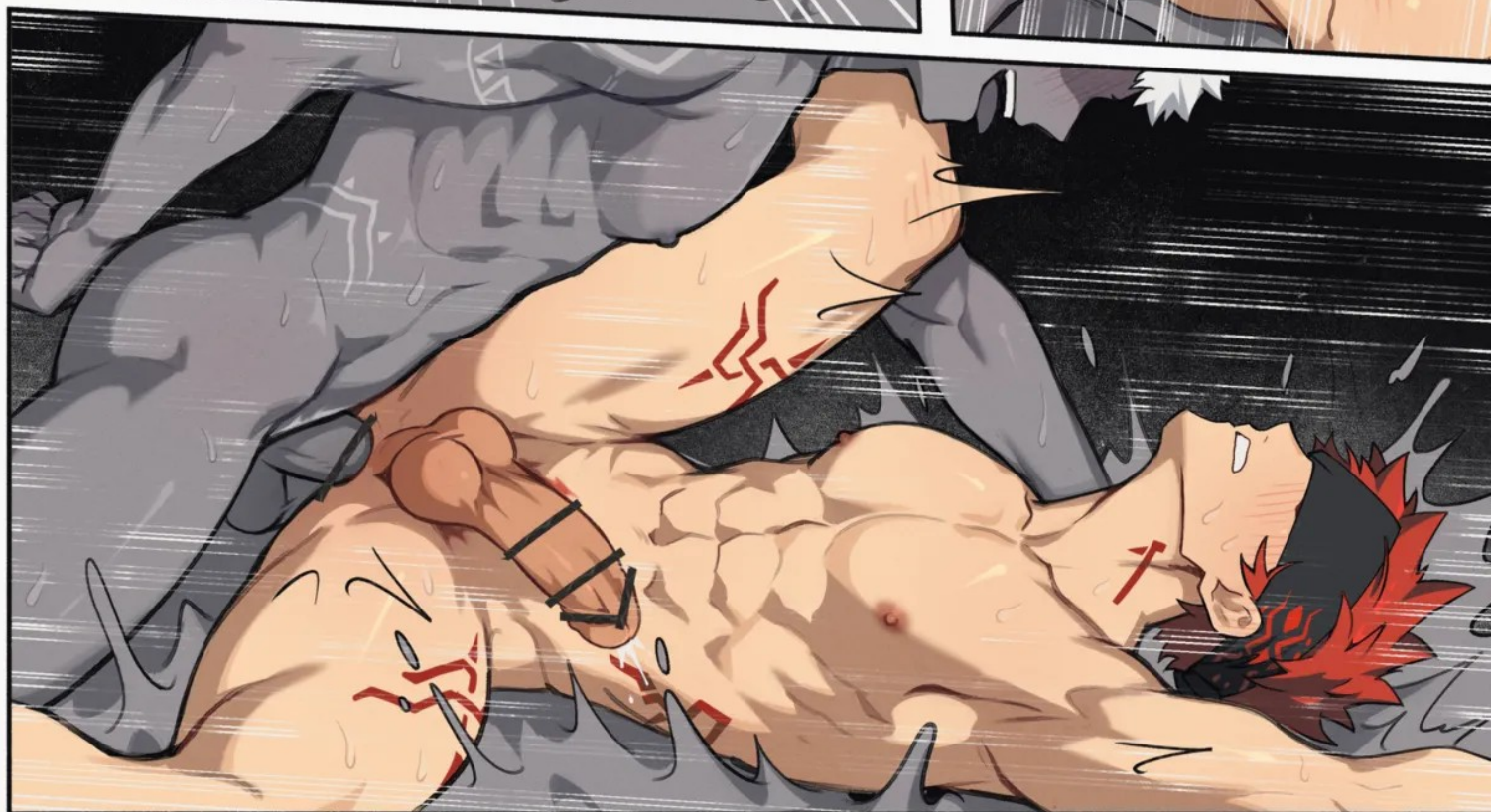
あっ...!!! ヽヽ



感じる…体が  
活力に満ちあ  
ふれてる！

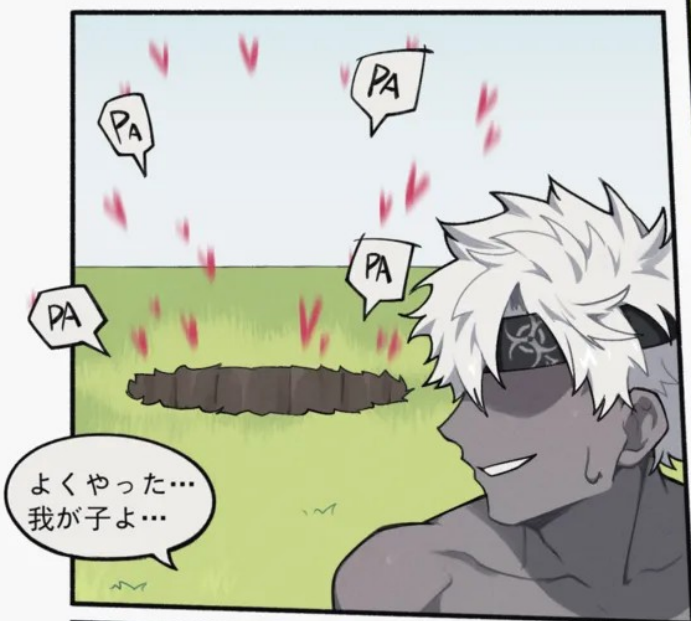


うっ！



余ったエネルギーは…鱗目の体の中で  
発散させてもらうよ！

…！！





この野郎!!



くっ!



未熟で、これ一招きだけ  
だけど…この術は消耗が激し  
くて…最後の手段だった…



鱗目! 狩風!  
大丈夫か! ?





さっき君の体に  
射精した“種”が、  
もう広がり始め  
てるぜ!

そのままじっとして  
るか、自分自身にもう  
一発石化光線を打って  
みるか?



誰かに発見される  
頃には、超エロい  
石像になってるさ!  
はははは..!



や...やめろ!



はあ...! 俺の体が  
完全に復活するま  
で、お前の体を借り  
るぜ!



かしこまりま  
した...ご主人様!

このクソみたいな場所に来てからずっと気になってたんだが、この奇妙な模様が刻まれた石は何だ？

ああ…それは…

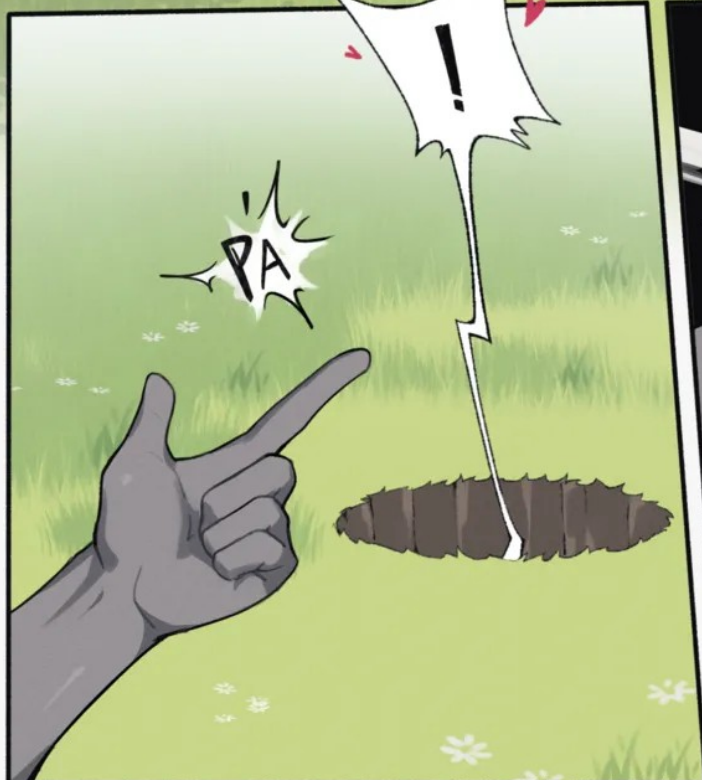
境界石と呼ばれるものです…ここが…我々の部族の領地であることを示しています

特殊な拠点や遺跡…にも境界石は設置されています…

大きな境界石は…界岩と呼ばれ…氏族の領地境界の象徴です…

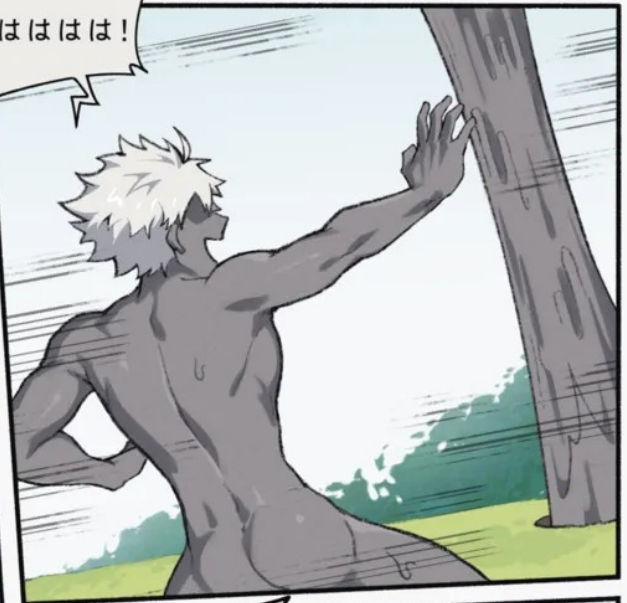
界岩の破壊は…戦争の始まりを意味します

へえ？面白いこと思いついたぜ…

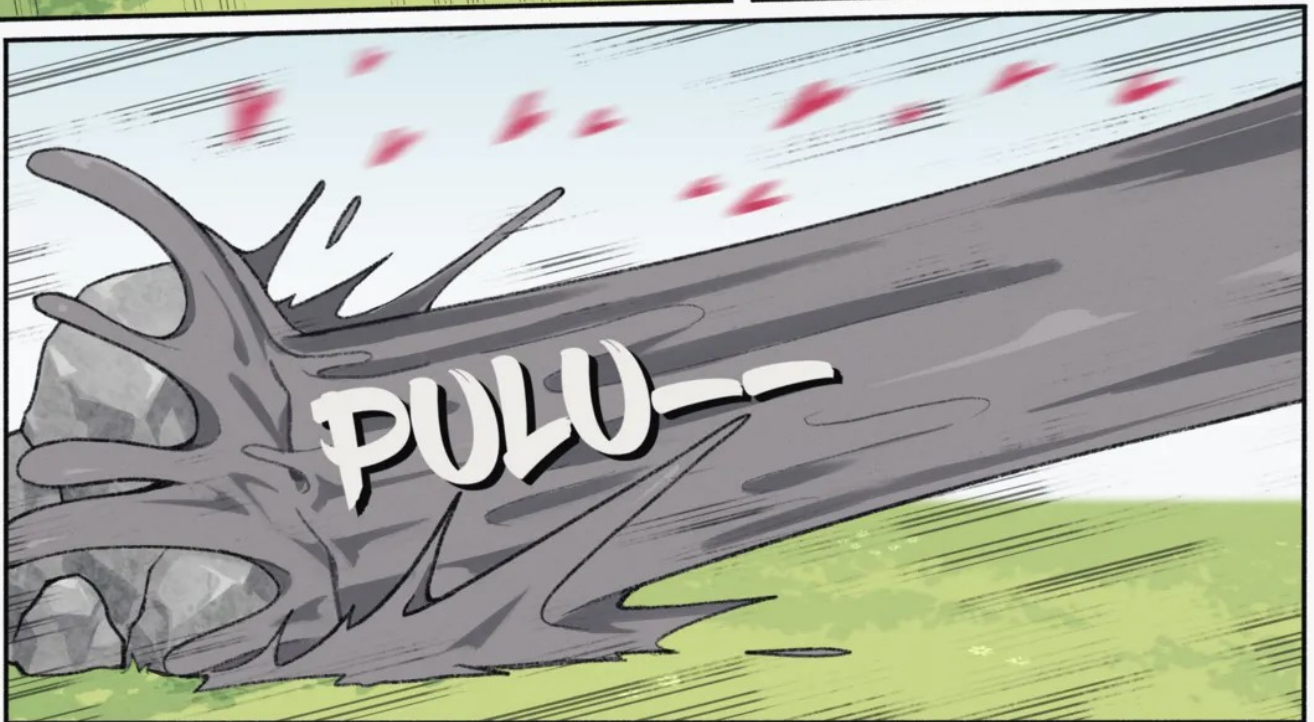




ははははは！



こっちへ  
来い！



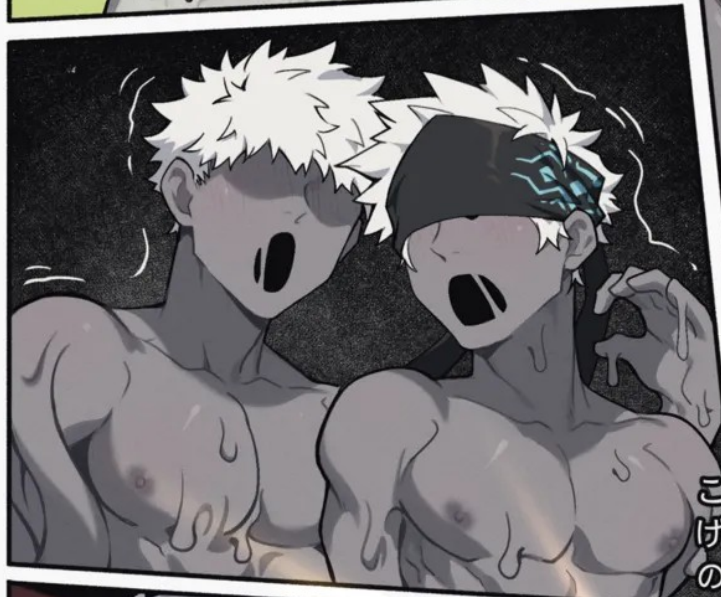
PULU—



うわぁ！君の二人  
の仲間はマジでエ  
ロいじゃないか..！



元の姿に戻ったら  
すぐキスしたがる  
なんて..！



これで最後の仕上  
げだ！子犬よ、お前  
の法術を貸せ！



仰せのままに..！



数時間後...

君の話だと、この辺りには美味しそうな部族の男がたくさんいるんだろうな...

ふふふふ...君の部族の連中がこの石を見つけた時の顔がもう見たいぜ!

この場所に新しい氏族を増やしてやる!

狩りのはじまりだ!

はい...ご主人様!

END